

授業概要

原価計算論（実際原価計算）では、企業で製品を製造して販売したり、いろいろなサービスを提供するためにかかる「実際の原価」について学習しました。しかし、実際原価には、把握するのに時間がかかる、作業能率や工程の良し悪しを測定することができないなどのデメリットがあります。そこで本講義では、これらの実際原価計算のデメリットをカバーするために生れた標準原価計算について講義します。本講義では、講義中に練習問題を解きながら学習していきます。

授業計画

第 1 回	原原価計算の全体
第 2 回	実際原価計算と標準原価計算の意義と目的
第 3 回	直接材料費と加工費、加工進捗度と完成品換算量の考え方
第 4 回	月末仕掛品の評価方法
第 5 回	月末仕掛品の評価（１）平均法
第 6 回	月末仕掛品の評価（２）先入先出法
第 7 回	標準原価計算の意義と目的
第 8 回	製品原価と月末仕掛品原価の計算
第 9 回	直接材料費差異の計算
第 10 回	直接労務費差異の計算
第 11 回	製造間接費配賦差異の計算（１）
第 12 回	製造間接費配賦差異の計算（２）
第 13 回	製造間接費配賦差異の計算（３）
第 14 回	標準原価計算の記帳方法
第 15 回	まとめ
第 16 回	筆記試験

到達目標

「原価とは何か」「実際にかかった原価はどのように計算するのか」について、原価計算の基礎を踏まえて、総合原価計算、標準原価計算を主として、日商簿記２級（工業簿記）レベルの実力をつけることを目標とします。

履修上の注意

講義中に、練習問題を解くので、電卓を忘れずに持参して下さい。できれば、「原価計算論Ⅰ（実際原価計算）」を履修していることが望ましい。

予習・復習

講義レジュメをもとに、復習してください。

評価方法

学期末試験 70%、中間試験 20%、受講態度 10%で総合的に評価します。

テキスト

テキストの購入は、特にありません。講義中にレジュメを配布します。